

県外派遣審判員報告書

作成日 2019年 3月 23日

大会名	第17回九州ジュニアオールスターバスケットボール交換大会	会場	大津町総合体育館
期間	3月16日(土)～3月17日(日)	報告者	田崎 和也(中体連)

スケジュール

期日	内容	場所
3月16日(土) 9:30～	大会1日目	大津町総合体育館
3月17日(日) 9:00～	大会2日目	大津町総合体育館

審判会議の内容

○ 審判会議なし

割り当て	期日	内容	役職	相手	場所
	3月16日	女子予選リーグ【 佐賀 vs 宮崎 】	副審	若杉(熊本)	
	3月16日	女子予選リーグ【 熊本B vs 佐賀 】	副審	伊美(長崎)	
	3月17日	女子1位パート【 鹿児島 vs 宮崎 】	U2	島本(熊本) 藪崎(熊本)	
	3月17日	女子3位パート【 大分 vs 熊本B 】	副審	森(熊本)	

OPGCO

- ・ チーム情報の共有(試合観戦, 県内でのプレーの様子を出し合う)
- ・ 旧ルールで実施されるにあたってのガイドラインの確認。
- ・ ガイドラインにそった判定の基準をゲームの早い段階で明確に示すこと。
- ・ まずは, お互いのプライマリーをしっかりと判定することと, セカンダリーとしての協力の仕方について確認。2P Oの際は, 下手にリードが右に渡ってしまうと振られてしまうケースも考えられるため, クローズダウンから右へ渡る際の判断と, 早く戻ると意識しつつ, 場合によっては, トレールの協力が必要であるという確認。
- ・ 3POメカニクスの確認(ローテーションのタイミング, ショットクロックの管理, オールコートプレスをしてきた時の対応, OOBの協力, TO管理, ファール管理などについて)
- ・ 声を出して積極的にゲームをリードしていくこと。

○ゲーム中

- ・ 声を出して積極的にゲームをリードしていくことを意識。
- ・ 意識はしていたものの, リバウンド時の体の寄せ方, 手の使い方に関して早い段階で判定し, 基準を示すことが必要であった。
- ・ ガイドラインにそった基準を早い段階で示すことの重要性を感じた。
- ・ リードの際プレーに対して近づきすぎることがあるため, 適切なプライマリーとアングルを保っていかなければならないと感じた。
- ・ クルーワークについては, 初めてお会いする方も含めて, お互いを尊重し合ってゲームに臨めたのではないかと感じています。

○ゲーム後のMTGO

- ・ 主任がついていなかったため, クルー同士でミーティングを実施。
- ・ 映像等を用いることはできなかったが互いの感じた点, 疑問点について共有, 確認することができた。
- 各試合ごとにお互いに意見をしっかりと行うことができ, 充実したミーティングを積み重ねることができたと感じております。多かった反省点としては, クルー同士での細かい確認, コミュニケーションの重要性でした。また3POにおけるローテーションのタイミングを再度理解, 確認しておく必要であったことでした。

全体を通しての感想

今回は各県の選抜チームが集まる大会に派遣していただき貴重な経験をする事ができたと思っております。「失敗を恐れずにチャレンジ」することを常に意識しゲームに臨みました。3PO1試合を含む合計4試合担当することができ様々な学びを得ることができました。

1つ目は「ベーシックの徹底」です。それぞれの試合におけるゲーム展開も様々であるため, 試合を通して臨機応変に対応するべき部分と, どのゲームにおいても同じ基準で試合を進めていかなければならない「ベーシックな部分」を徹底していくことは非常に重要であると感じました。これはすぐには身につくものではなく, 日頃の県内大会をはじめとする日々の積み重ねと取り組む姿勢が大きく影響してくると感じました。

2つ目はあらゆる判定に対しての「なぜそのようになったのか」といった説明できる材料と根拠をしっかりと持つということです。大会中ベンチからのアピールがある場面がありましたが, はたして納得してもらっただけの確固たる根拠があったかどうか全てにおいて完璧を求めることはできませんが, 今後の課題としてあげられるのではないかと感じました。

以上が今大会を通して大きく感じたことです。日頃とは違う環境, 雰囲気を経験でき, 今後益々研鑽の機会を大切に, 審判員として積極的に活動していきたいと思っております。

切に、審判員として懇切的に活動していただきたいと思いました。

最後に、このような機会を与えて下さった県審判委員会や、運営等さまざまな場面でお世話をして下さった熊本県審判部の方々に感謝申し上げ、第17回九州ジュニアオールスターバスケットボール交換大会の派遣報告いたします。